

決算説明会

2008年(平成20年)3月期

株式会社ケンウッド
代表取締役社長 兼 CEO

塩畑 一男

2008年5月13日

目次

1. 2008年3月期決算概要
2. 2009年3月期業績見通し
3. 2009年3月期の取り組み

【ご注意】

本資料中の将来への見通しに関する記述・図表などは、当社グループが現時点で入手可能な情報から得た判断に基づく将来の予想および目標であり、実際の結果は、様々な要素により、これらの見通しとは大きく異なる可能性があります。

【資料中の略語】

CE:カーエレクトロニクス COM:コミュニケーションズ HE:ホームエレクトロニクス

1. 2008年3月期決算概要

1. 2008年3月期決算概要 **連結損益**

【売上高】

当第4四半期の急激な円高の影響により、前期比約39億円減(2.3%減収)
為替変動の影響を除いた現地通貨ベースでは前期比約69億円増(4.1%増収)

【営業利益】

CE事業(市販分野)、HE事業の損益改善により、前期比約6億円増(11.4%増益)

【経常利益】

営業利益の増加に加え、営業外収支の改善により、前期比約15億円増(65.7%増益)

【当期純利益】

経常利益の増加に加え、特別収支の改善により、前期比約16億円増(100.5%増益)

連結PL

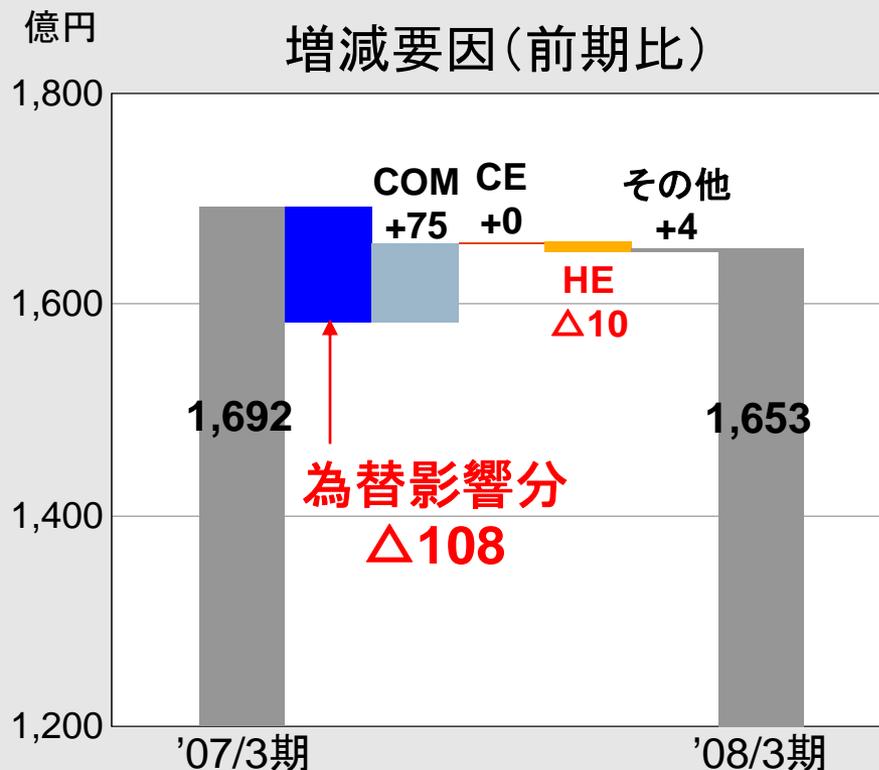
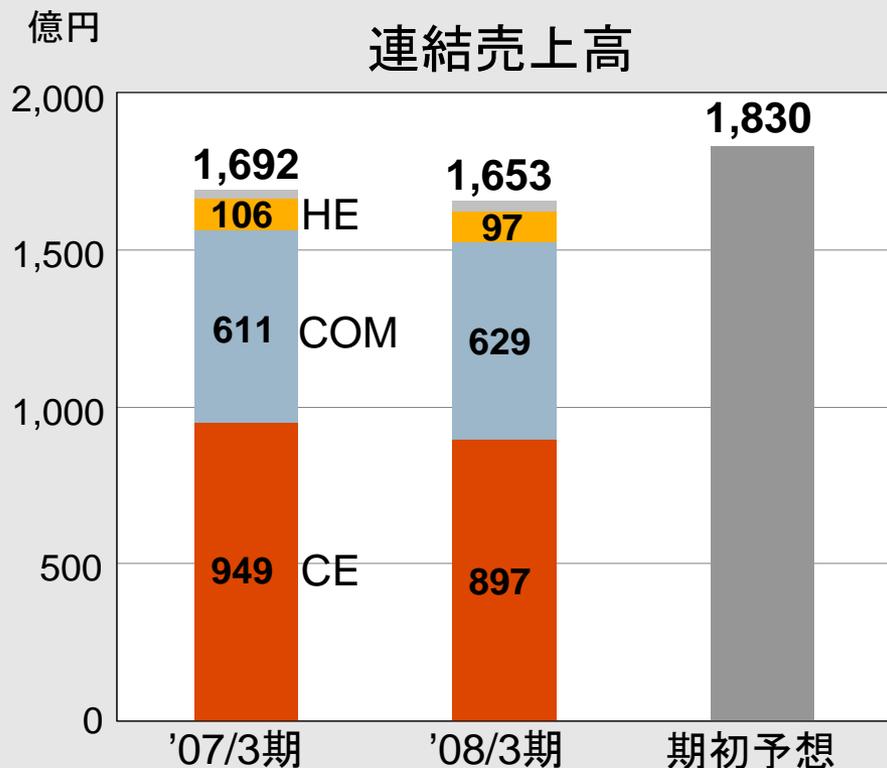
(億円)

	'07/3期実績		'08/3期実績		前期比		期初予想	
	金額	利益率	金額	利益率	金額	率	金額	利益率
売上高	1,692		1,653		△39	△2.3%	1,830	
営業利益	56	3.3%	63	3.8%	6	11.4%	83	4.5%
経常利益	23	1.4%	39	2.3%	15	65.7%	50	2.7%
当期純利益	16	0.9%	32	1.9%	16	100.5%	40	2.2%

1. 2008年3月期決算概要 連結売上高

前期比2.3%減収

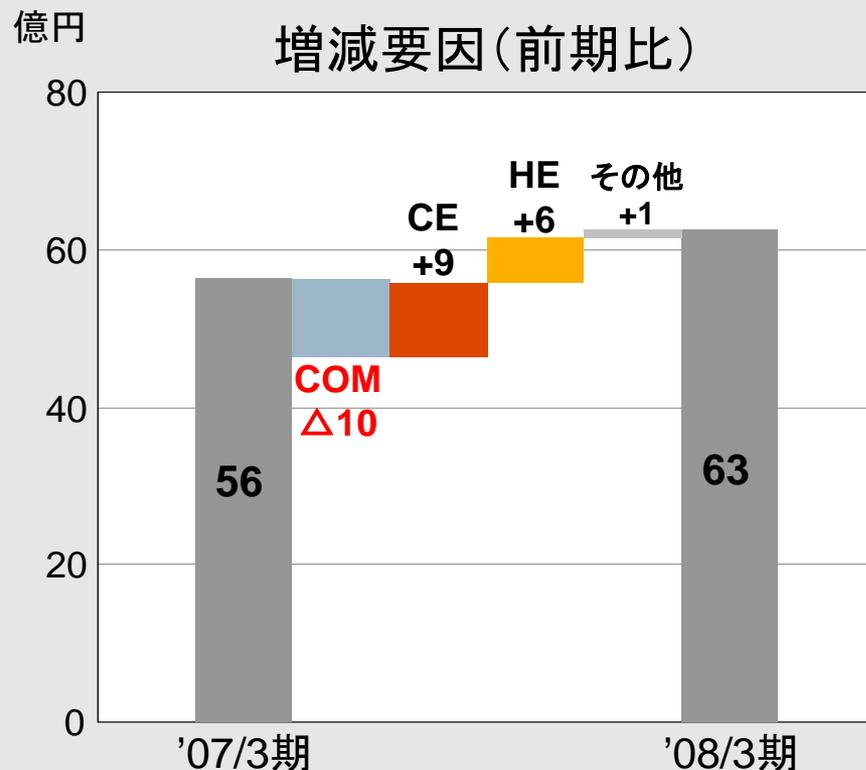
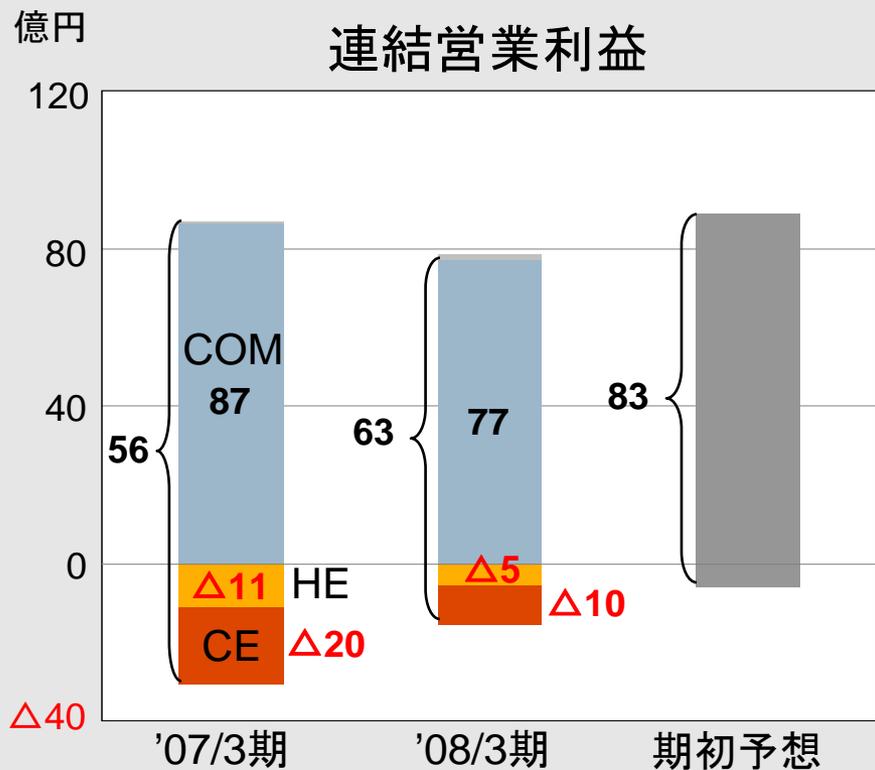
- * 円高の影響(期初計画比約108億円)により、前期比約39億円減(2.3%減収)
- * 現地通貨ベースでは、米国無線通信システム事業会社Zetron社を子会社化した効果などにより、前期比約69億円増(4.1%増収)



1. 2008年3月期決算概要 連結営業利益

前期比11.4%増益

- * CE事業の損益は、OEM分野の悪化を市販分野の改善が吸収し、大きく改善
- * HE事業の損益も、戦略転換の効果で大きく改善
- * COM事業は減益ながら、全社では前期比約6億円増(11.4%増益)



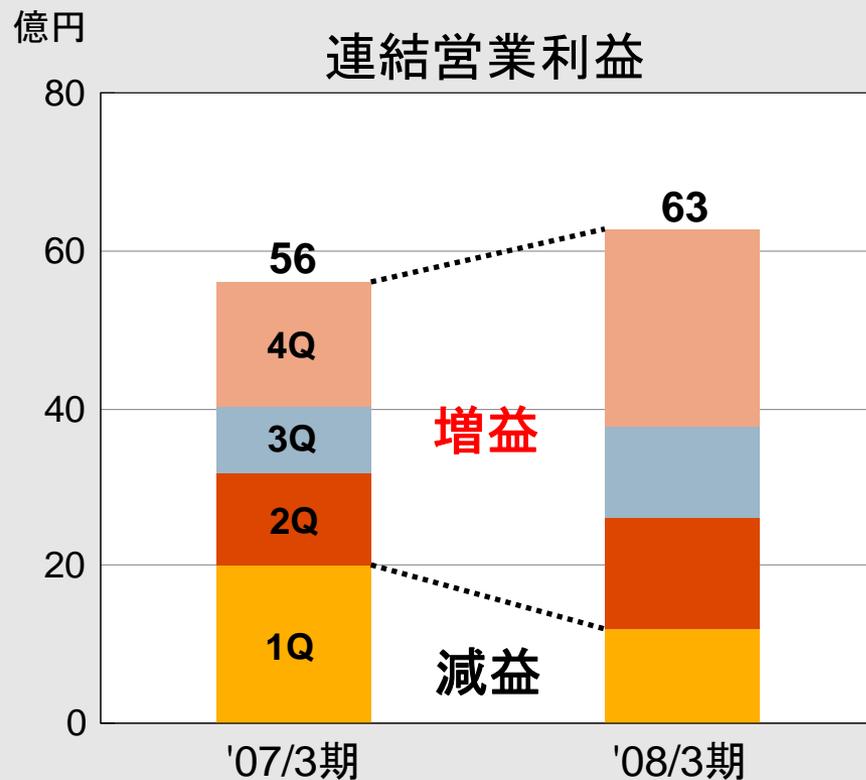
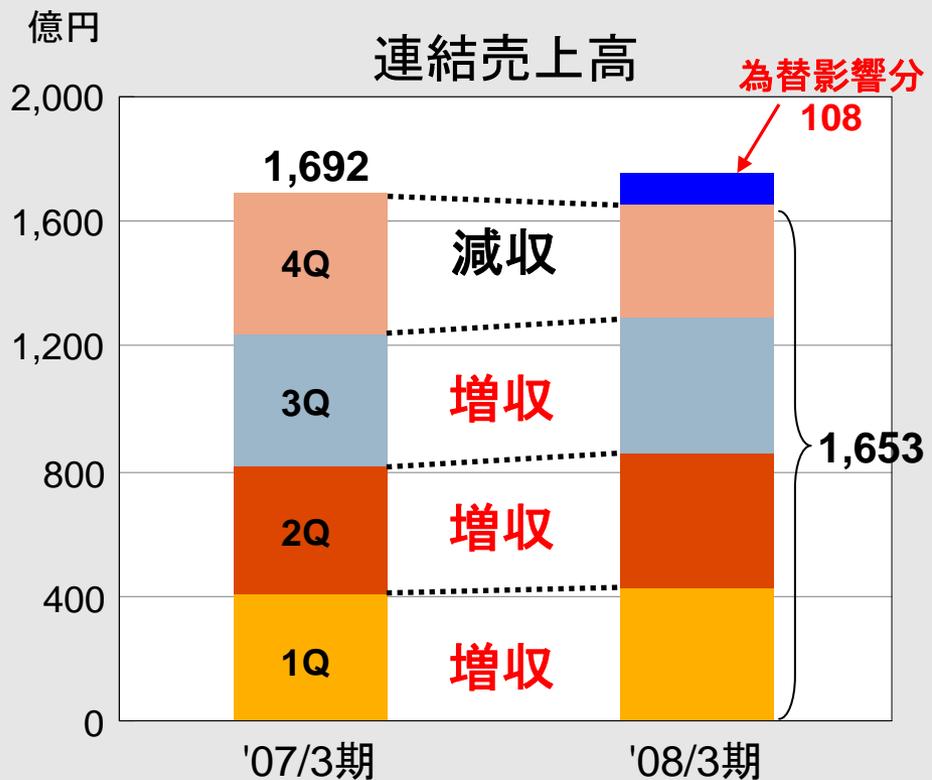
1. 2008年3月期決算概要 四半期別損益

第2四半期以降は増益基調に

* 第2四半期以降は前期施策の成果が顕在化し、増益基調

* 第4四半期は急激な円高の影響で減収

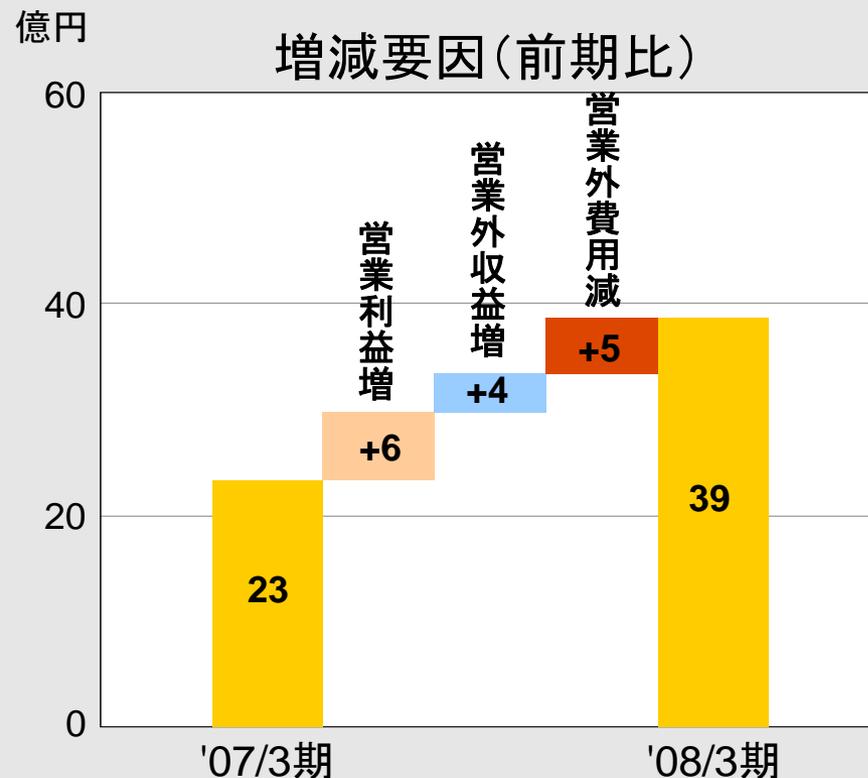
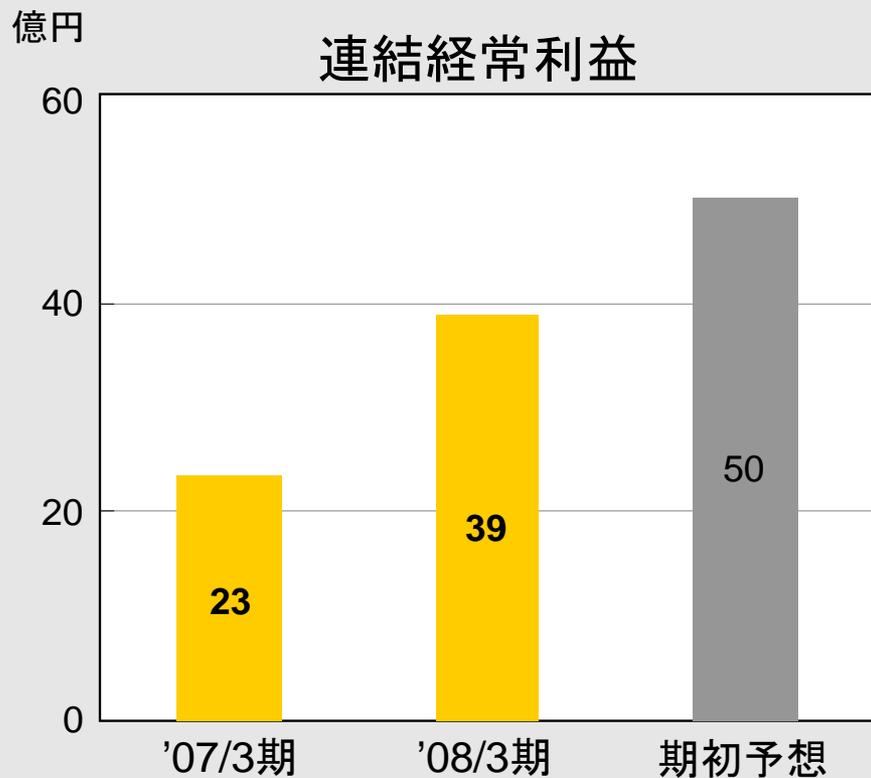
→外貨建ての海外売上高を期末為替レートで円貨換算する会計方針による



1. 2008年3月期決算概要 連結経常利益

前期比65.7%増益

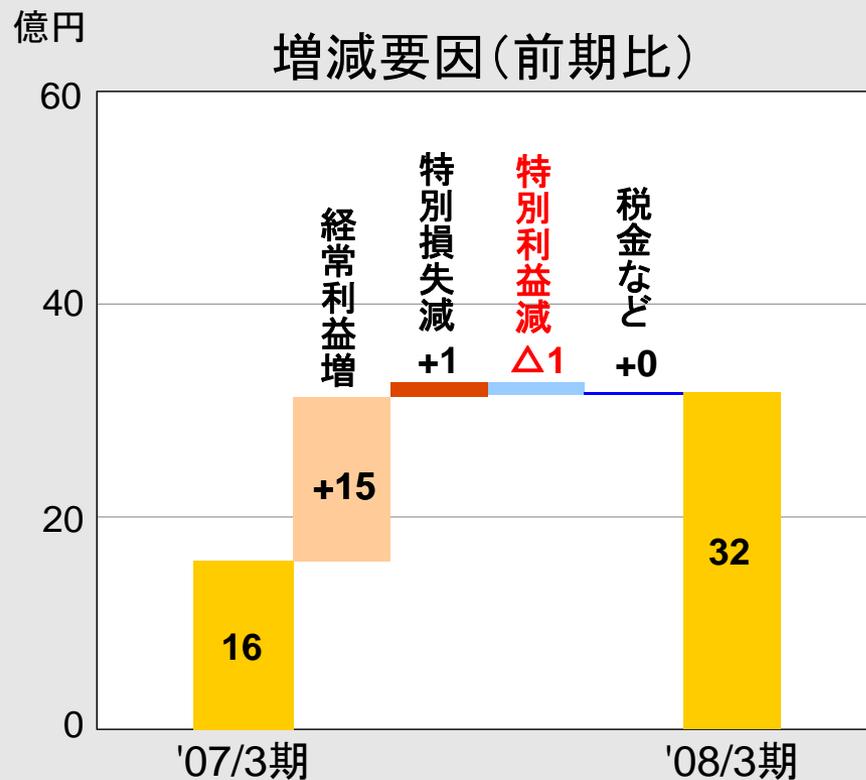
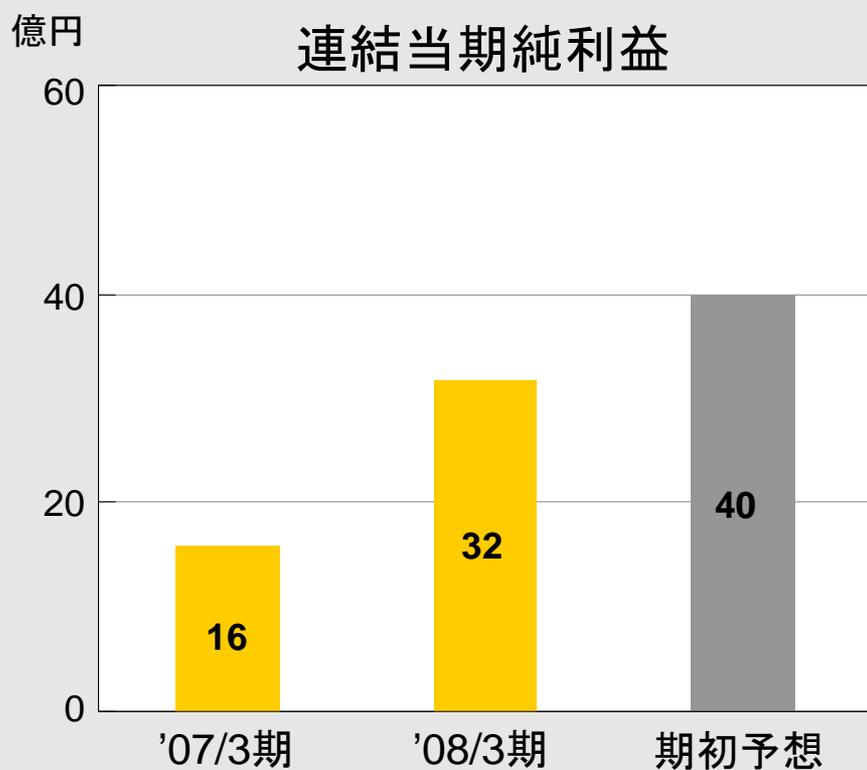
* 営業利益の増加と、営業外収益の増加などにより、営業外収支が改善



1. 2008年3月期決算概要 連結当期純利益

前期比100.5%増益

* 経常利益の増加と、前期に計上した一過性の特別損失(役員退職慰労金)が当期は発生しなかったことなどにより、特別収支が改善



1. 2008年3月期決算概要 財政状態

【バランシート】

- * 無形固定資産の増加や投資有価証券の増加などにより、総資産は増加
- * 投資有価証券の株価下落の影響や円高の影響により、純資産は減少
- * 有利子負債・ネットデットは、金融機関からの資金調達により増加

主な関連指標の推移

	'05/3期末	'06/3期末	'07/3期末	'08/3期末
総資産(億円)	1,161	1,096	1,112	1,261
純資産(億円)	331	375	391	299
利益剰余金(億円)	132	183	191	215
自己資本比率(%)	28.5	34.2	35.1	23.7
有利子負債(億円)	311	263	238	514
ネットデット(億円)	151	122	68	364

(算定方法)

・自己資本比率＝純資産÷総資産

セグメント情報

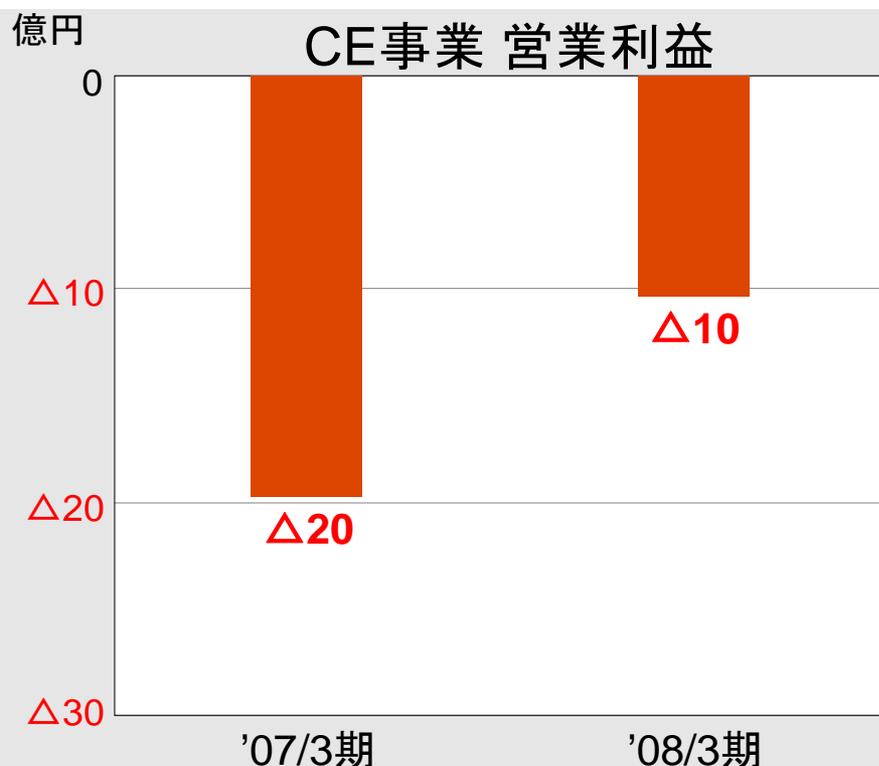
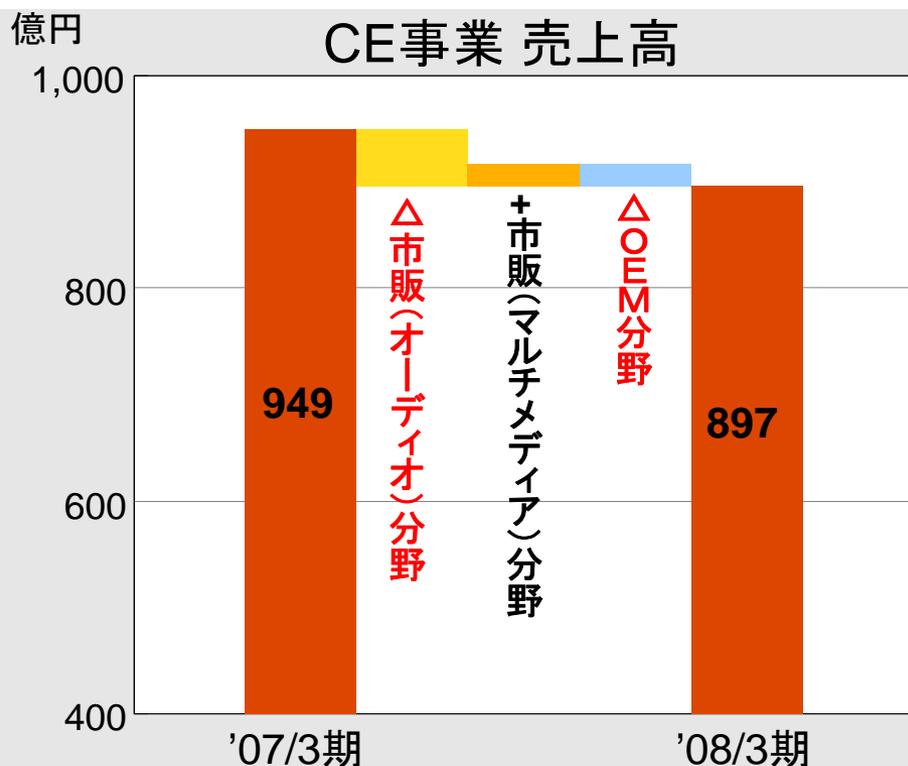
1. 2008年3月期決算概要 **CE事業**

【売上高】 前期比5.6%減収の約897億円

- * 市販分野の円高の影響やOEM分野の販売伸び悩みにより、減収
- * 現地通貨ベースでは、海外向けナビやオーディオ新製品群の好調により、前期実績並み

【営業利益】 前期比9億円改善の約△10億円

- * OEM分野の損益悪化を市販分野の収益改善が吸収し、損失は前期に比べて半減



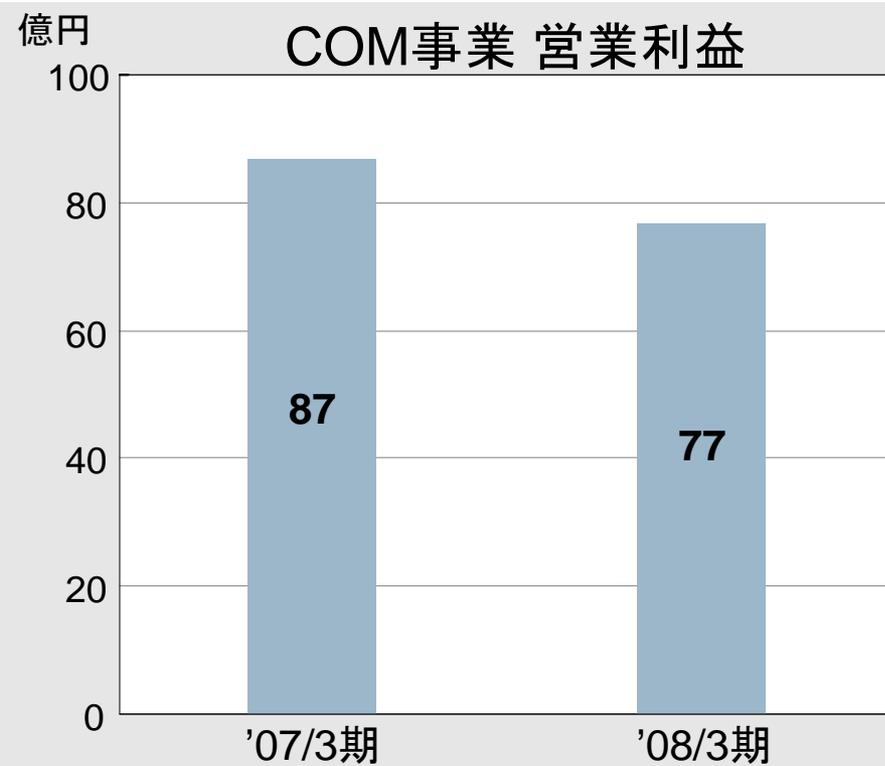
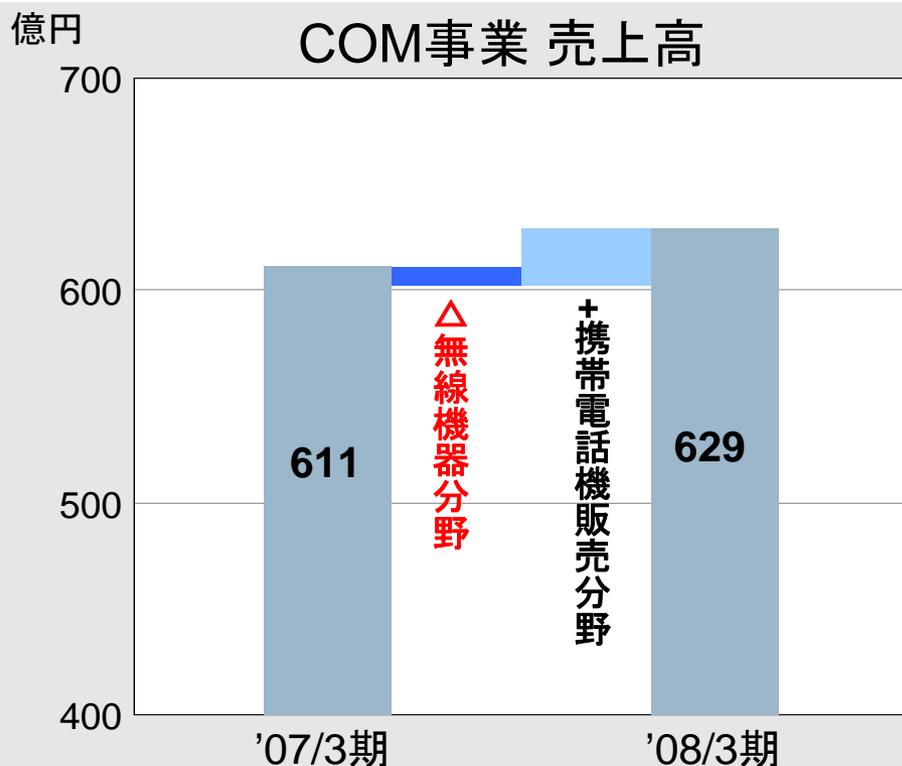
1. 2008年3月期決算概要 COM事業

【売上高】前期比3.0%増収の約629億円

- * Zetron社を子会社化した効果と携帯電話機販売分野の売上増が無線機器分野の円高の影響を吸収し、増収
- * 現地通貨ベースでは、無線機器分野も販売増となり、大幅増収

【営業利益】前期比11.4%減益の約77億円

- * 為替変動の影響やZetron社の子会社化に係る一時的費用、減価償却費の影響で減益



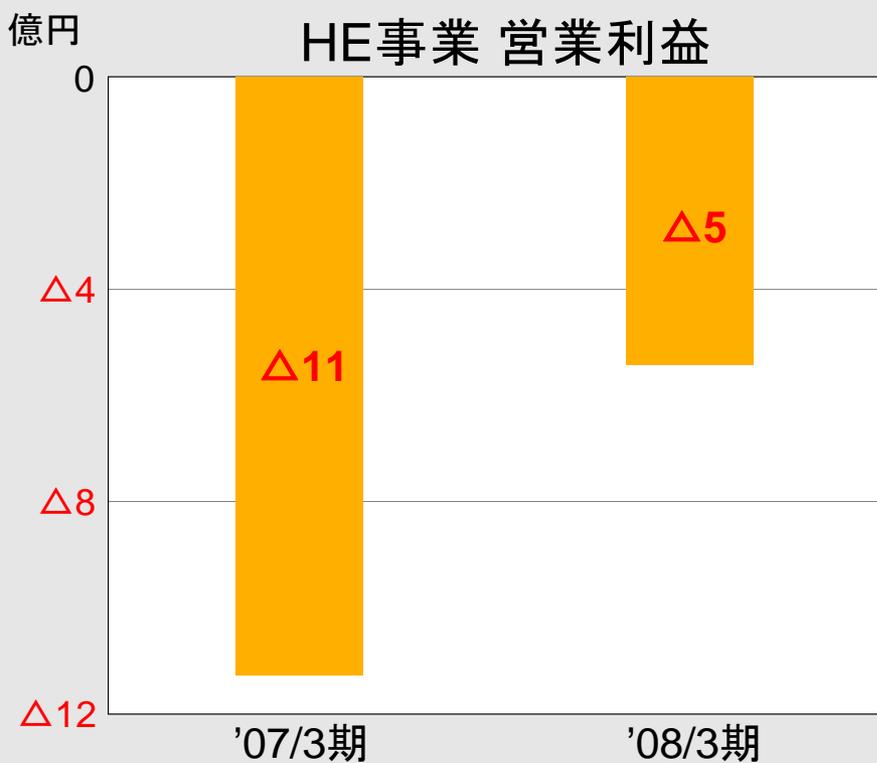
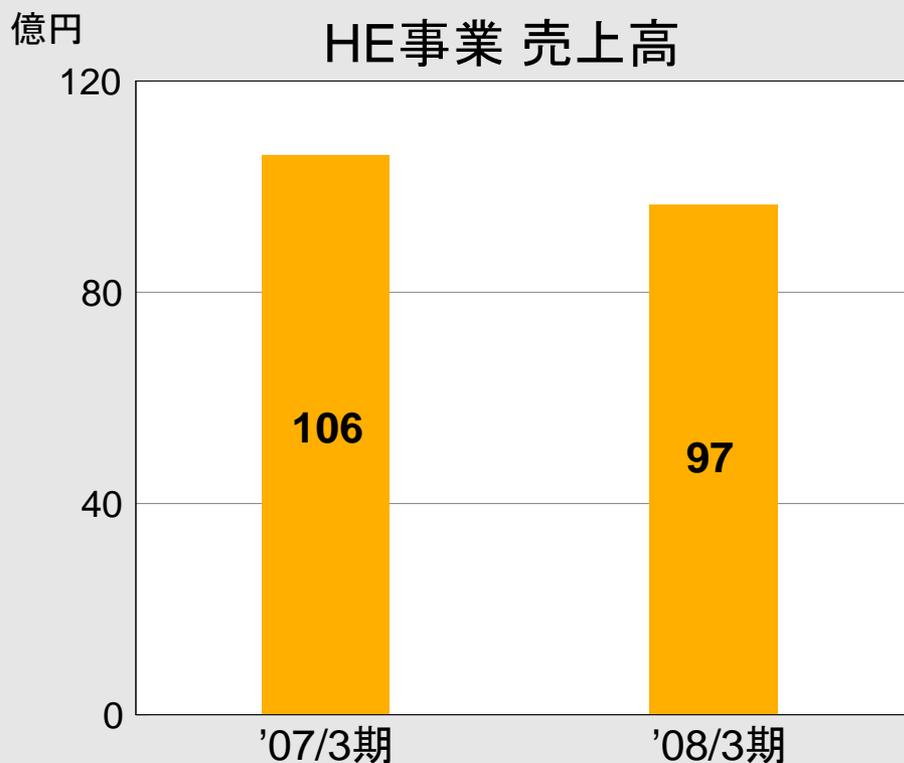
1. 2008年3月期決算概要 HE事業

【売上高】 前期比8.5%減収の約97億円

* 市場動向の影響で商戦期の新製品販売が伸びず、減収

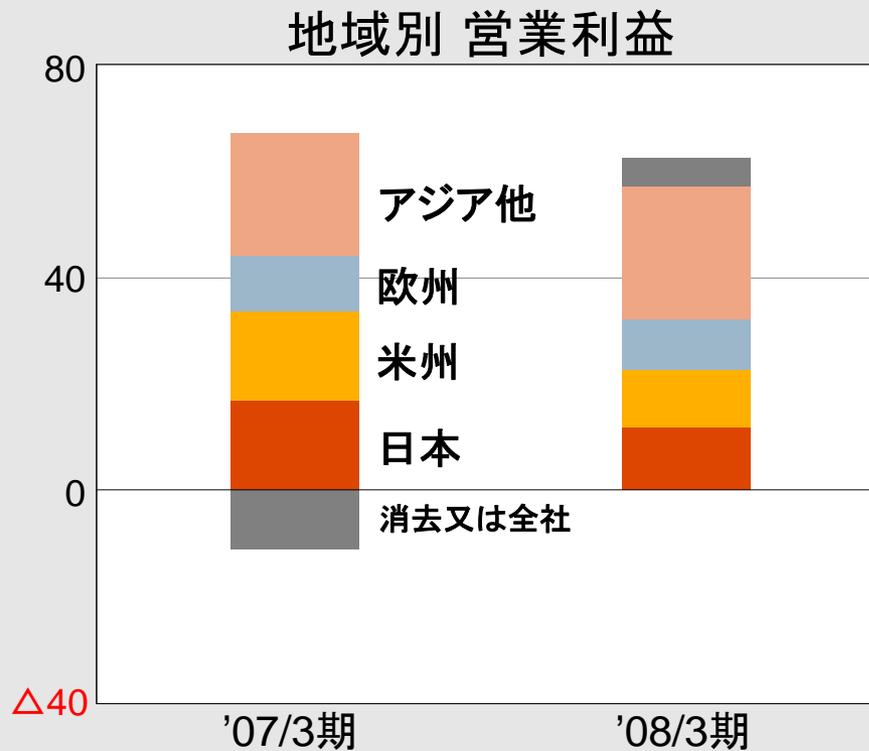
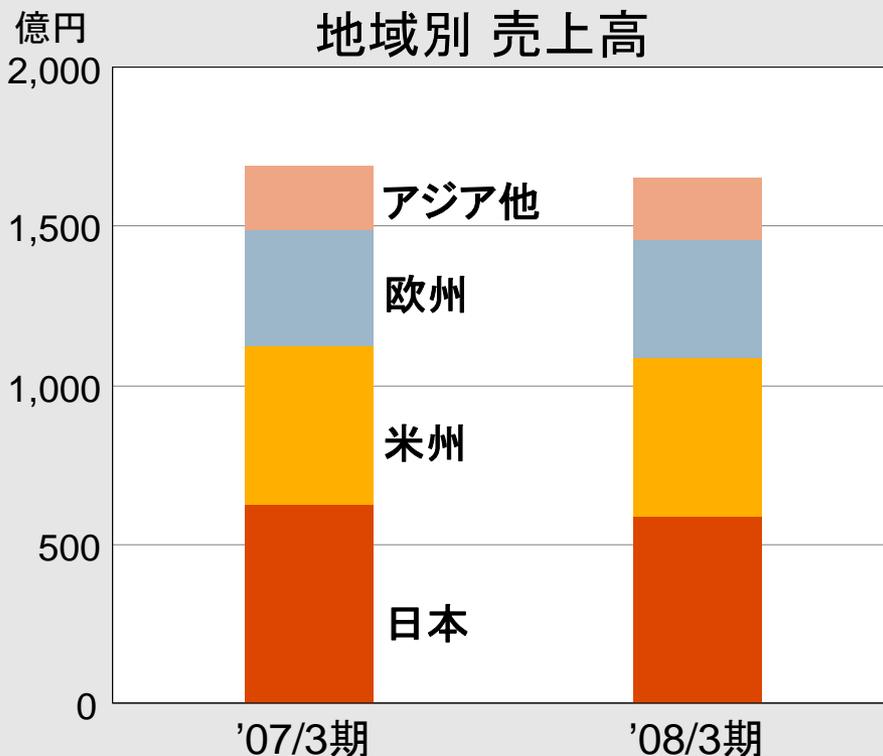
【営業利益】 前期比6億円改善の約△5億円

* 高付加価値製品のラインアップ拡充とプレミアム・ロングテール戦略の展開により、当下期には黒字化を果たし、損失は前期に比べて半減



1. 2008年3月期決算概要 地域別損益

- 米州** CE事業市販(マルチメディア)分野が売上拡大するも、COM事業の収益減少により、増収減益
- 欧州** COM事業、HE事業の売上拡大と、CE市販事業市販(マルチメディア)分野の収益貢献により、増収増益
- 日本** COM事業携帯電話機販売分野が売上拡大するも、CE事業OEM分野の売上減少により、減収減益



2. 2009年3月期業績見通し

2. 2009年3月期業績見通し **連結損益**

【売上高】 円高の影響を織り込むも、CE事業市販(マルチメディア)分野や無線機器分野の売上拡大により、5.9%増収の1,750億円を見込む

【営業利益】 CE事業の黒字化やHE事業の赤字解消により、投資負担を吸収し3.8%増益の65億円を見込む

【経常利益・当期純利益】 一過性の営業外損益、特別損益を織り込み、それぞれ9.7%減益の35億円、37.1%減益の20億円を見込む

連結損益

(億円)

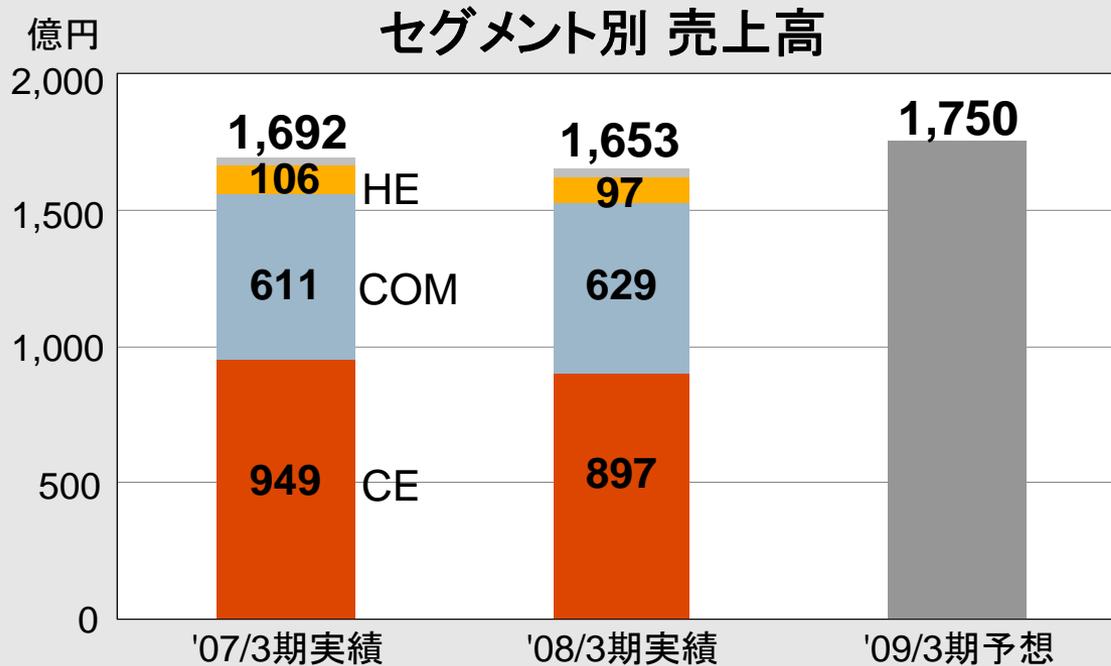
	'07/3期実績		'08/3期実績		'09/3期予想		前期比	
	金額	利益率	金額	利益率	金額	利益率	金額	率
売上高	1,692		1,653		1,750		97	5.9%
営業利益	56	3.3%	63	3.8%	65	3.7%	2	3.8%
経常利益	23	1.4%	39	2.3%	35	2.0%	△4	△9.7%
当期純利益	16	0.9%	32	1.9%	20	1.1%	△12	△37.1%

2. 2009年3月期業績見通し 連結売上高

【CE事業】市販(マルチメディア)分野の売上拡大により、OEM分野の売上減少や円高の影響をカバー

【COM事業】デジタル化、システム化への対応による無線機器分野の売上拡大や携帯電話機販売分野の売上拡大を見込む

【HE事業】当期に注力した製品ラインアップ拡充とプレミアム・ロングテール戦略の成果を見込む

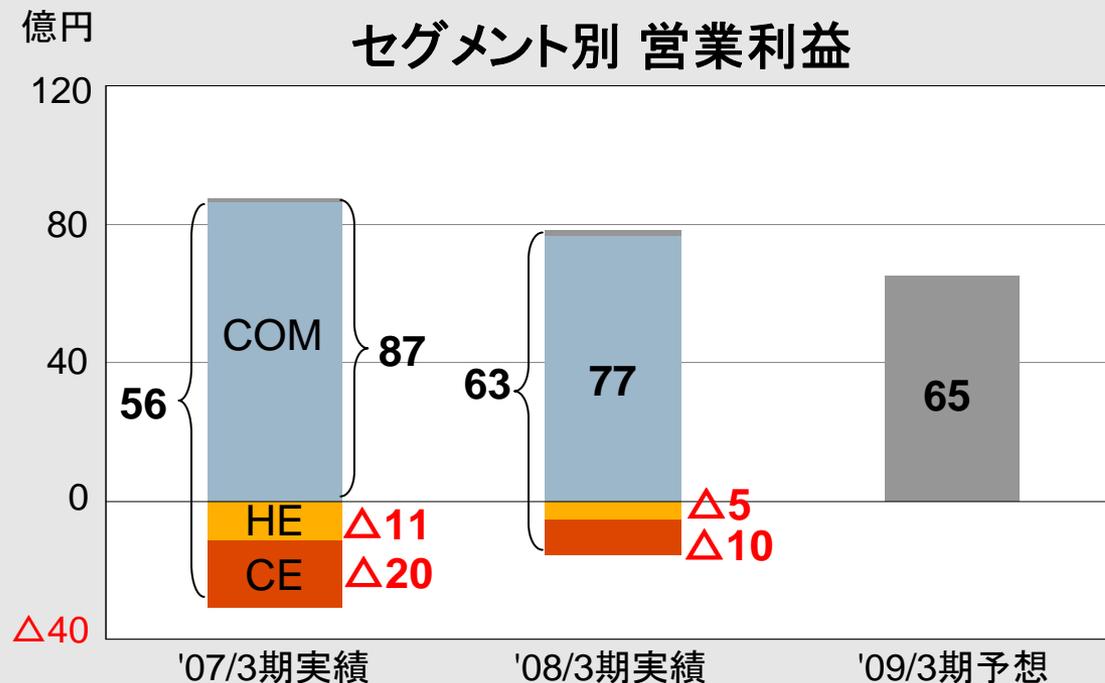


2. 2009年3月期業績見通し **連結営業利益**

【CE事業】 市販(マルチメディア)分野の売上拡大による収益改善により、黒字化を見込む

【COM事業】 無線機器分野を中心に安定収益を見込むが、将来の事業拡大に向けた投資負担増や円高の影響により減益を見込む

【HE事業】 収益構造改革の成果による赤字解消を見込む



3. 2009年3月期の取り組み

(1) 抜本的損益改善に向けた構造改革

3. 2009年3月期の取り組み

CE事業－OEM分野

早期の収益事業化に向けた抜本的損益改善に取り組む

- * 純正分野のコスト構造改革
- * 事業構造改革によるディーラーオプション分野やデバイス分野の拡大



純正モデル



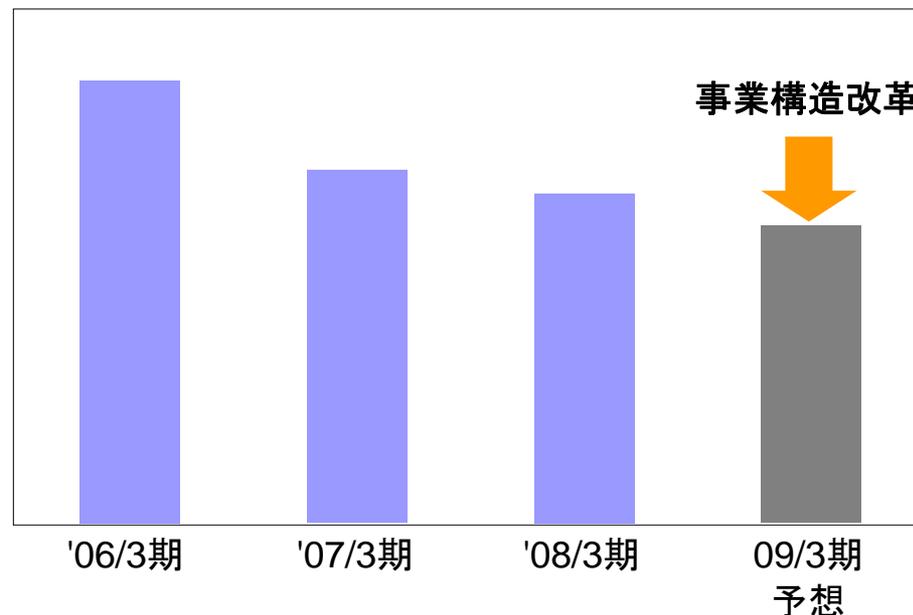
DVDメカ



軽自動車・小型車向け
メモリーナビ内蔵CDレシーバー
(ディーラーオプションモデル)



連結売上高の推移



3. 2009年3月期の取り組み

HE事業

さらに踏み込んだ収益構造改革により通期黒字化をめざす

- * 従来の事業部体制の再編成により赤字解消をめざす
- * 一部の開発リソースを新事業領域へ振り向け
- * 日本ビクターとの協業を活かした商品競争力の強化



セパレートコンポーネントクオリティを実現した「K1000シリーズ」



音楽も映画も高音質で楽しめるAVコントロールセンター



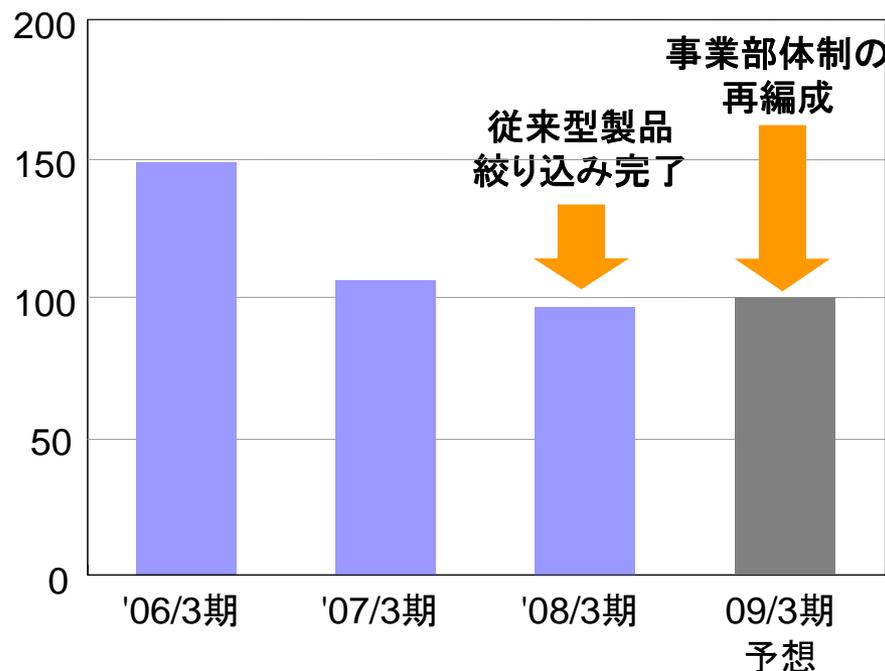
高音質デジタルオーディオレコーダー



楽曲の高音質伝送が可能なデジタルワイヤレスシステム

億円

連結売上高の推移



(2) 業績拡大に向けた事業競争力の強化

3. 2009年3月期の取り組み

CE事業－市販(オーディオ)分野 新興市場開拓とコスト競争力の強化

- * ブラジル市販市場での直販を開始し、南米市場での販売拡大
- * 新設したロシア販社を本格稼働させ、新興市場開拓を推進
- * 日本ビクターとの協業を活かした商品競争力の強化

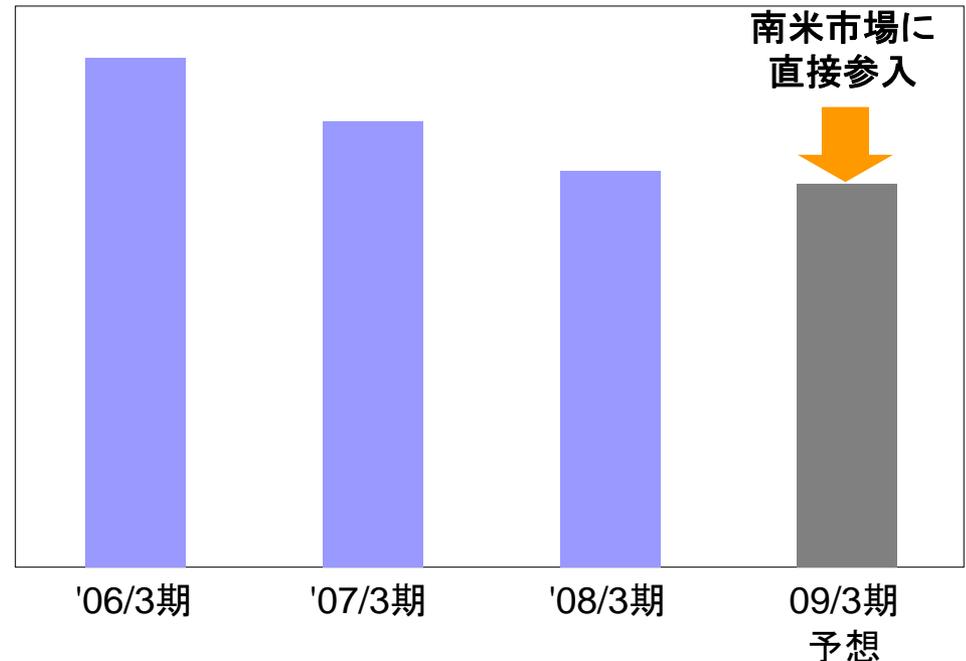


デジタルメディアとのシームレス化
を進めた高付加価値モデル



純正AV製品の機能拡張を可能にするシステム

連結売上高の推移



3. 2009年3月期の取り組み

CE事業－市販(マルチメディア)分野

海外向け・国内向けカーナビの販売拡大による売上・収益成長へ

- * PND最大手・米国ガーミン社との独占販売協定による海外向けカーナビ販売の拡大
- * 国内向けカーナビの強化



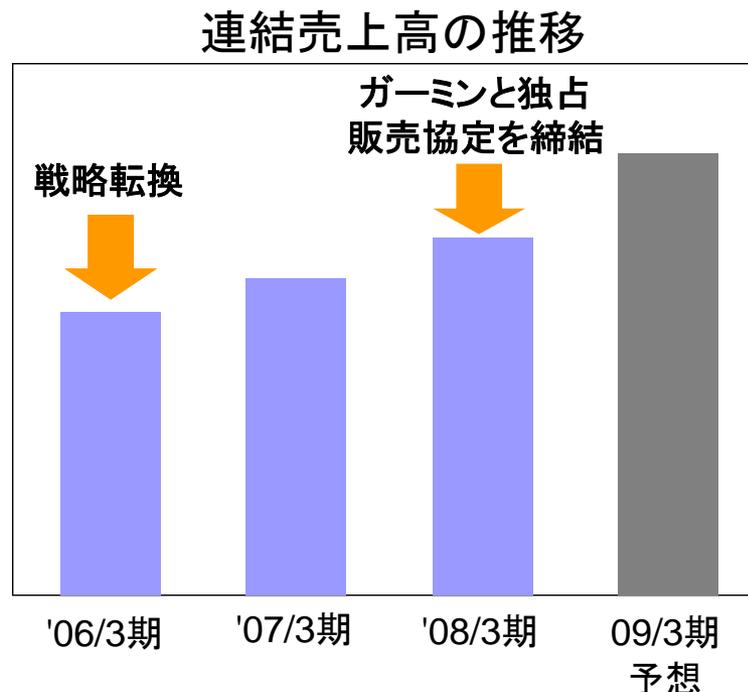
国内向けAV一体型ナビ
(ワンセグTVチューナー搭載)



国内向けAV一体型ナビ
(地デジTVチューナー付属)



海外向けナビ
(左:アドオンタイプ、右:オールインワンタイプ)



3. 2009年3月期の取り組み

COM事業

事業拡大に向けたデジタル化、システム化に取り組み

- * 米国公共安全向けP25準拠のデジタル業務用無線機器の販売拡大
- * 民間産業向け新デジタル無線方式準拠の業務用無線機器の販売拡大
- * Zetron社を中心とした無線システム事業の拡大



新デジタル無線方式に準拠した業務用無線機器



コンソール

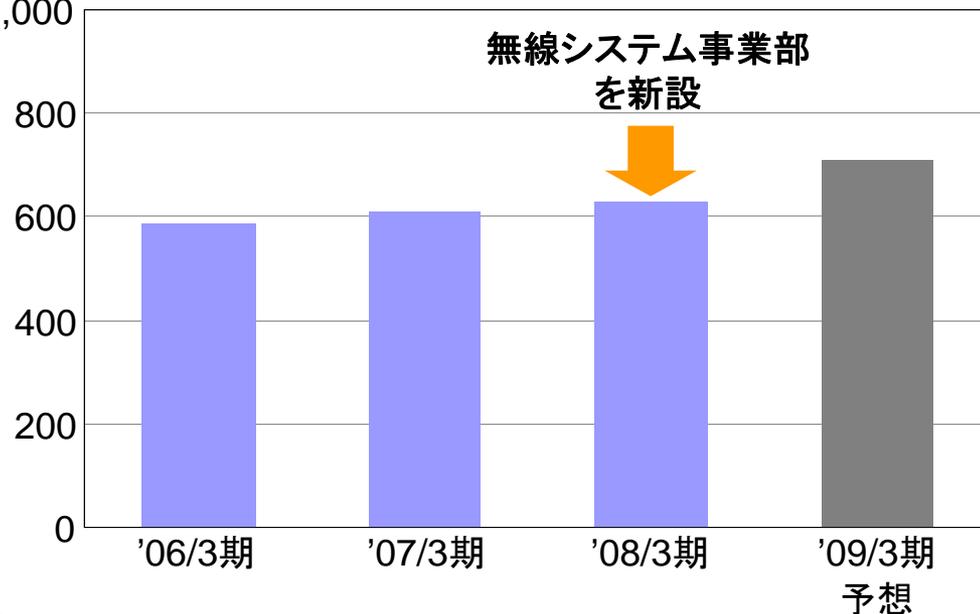


コントローラー

億円

1,000

連結売上高の推移

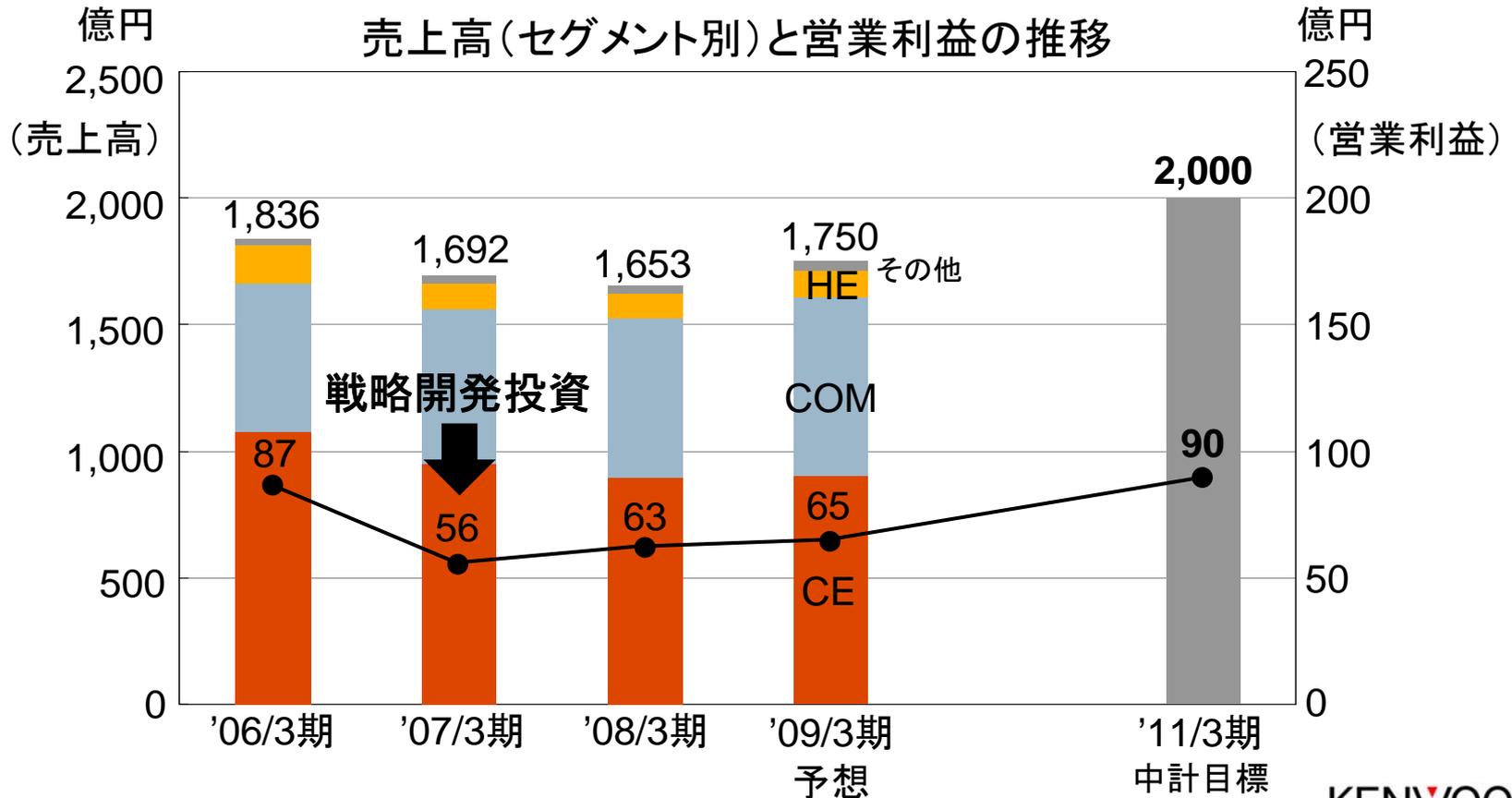


(3) 新中期経営計画の策定

3. 2009年3月期の取り組み

新中期経営計画の策定

戦略開発や事業提携、M&Aなどの施策の成果を顕在化させ、
CE事業の復活、HE事業の収益事業化をはかる。
COM事業は将来の事業拡大に向けた投資を推進。



(4) 日本の専門メーカーの再編に向けた取り組み ー日本ビクターとの経営統合についてー

経営統合のプロセス

第1ステップ①('07/8)

ビクターの構造改革開始、経営統合の検討開始
資本業務提携(ケンウッドからビクターへの出資)



第1ステップ②('07/10~'08/5)

技術開発合弁会社 J&Kテクノロジーズ(株)の設立~協業本格化
経営統合の検討 ⇒ 経営統合の合意・公表(5/12)



第2ステップ('08/6~'08/10)

株主総会承認
共同持株会社設立(株式移転)による経営統合

経営統合のプロセス 第2ステップ～経営統合

■ 経営統合のスキーム 両社それぞれに構造改革を終えて経営統合

- * 共同持株会社を設立し、株式移転により両社株式を100%保有
(両社株式に対し、所定の株式移転比率で共同持株会社の上場株式を交付)
- * J&Kテクノロジーズを将来は両社と並ぶ事業会社にすることを視野に、その役割を全面的な調達・生産分野へ拡大





KENWOOD

Listen to the Future